

「学生による授業評価」のまとめ 2013 年度春学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会
委員長 中村 和彦

2013 年度春学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2013 年 7 月 2 日～7 月 22 日に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関係 Web ページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの 1 科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で 587 科目が授業評価の対象となりました。

② **設問項目** 設問は 18 個あります。ただし、実際の授業評価用紙(マークシート)には 21 番までの番号が印刷されています。これは、JABEE(日本技術者教育認定機構)申請委員会が指定する科目用に追加されたものです。

設問 1 から 3 までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う内容です。設問 4 から 18 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問になっています。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2013 年 7 月 2 日～7 月 22 日) → 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2013 年 8 月 1 日) → FD 委員会による自由記述の閲覧(2013 年 8 月) → 教員からの報告書提出(2013 年 8 月) → FD 委員会での結果の分析・検討(2013 年 9 月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2013 年度春学期」の発行(2013 年 12 月)

2 集計結果の概要

結果の概要は、括弧付きの頁部分に記載されています。

① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は 99.83% (586/587 科目) でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.79% (468/469 科目)、瀬戸 100% (118/118 科目) でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は 100% (602/602 科目) でした。名古屋 100% (482/482 科目)、瀬戸 100% (120/120 科目) でした。(評価対象科目が、演習科目のうちのいわゆるゼミ、あるいは受講者数が 4 名以下の科目は、学生による授業評価を実施せず、報告書の提出のみをお願いしています。この分の科目数 15 が、①で示した科目数にプラスされています。)

③ **評定平均値** 設問 1 から 3 までの学生の授業参加を問う項目と設問 4 以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、設問 4 から設問 18 について平均値を算出しています。電算処理が行われた 581 科目 (回答数が 4 名以下の 5 科目は、電算処理を行っていません) 設問 4 から設問 18 の評定平均値の大学全体での平均は 4.38 でした。この平均値についての科目数と累積の分布を図 1 に示しました。

電算処理実施科目のうちの約 90%の科目が、設問 4 から設問 18 の評定平均値が 4.0 を超えており (4.0 以下が 8.95%)、さらに約 80%の科目が 4.2 を超えています (4.2 以下が 19.10%)。また今回、設問 4 から設問 18 の評定平均値が 3.0 未満であった科目は 1 科目でした。

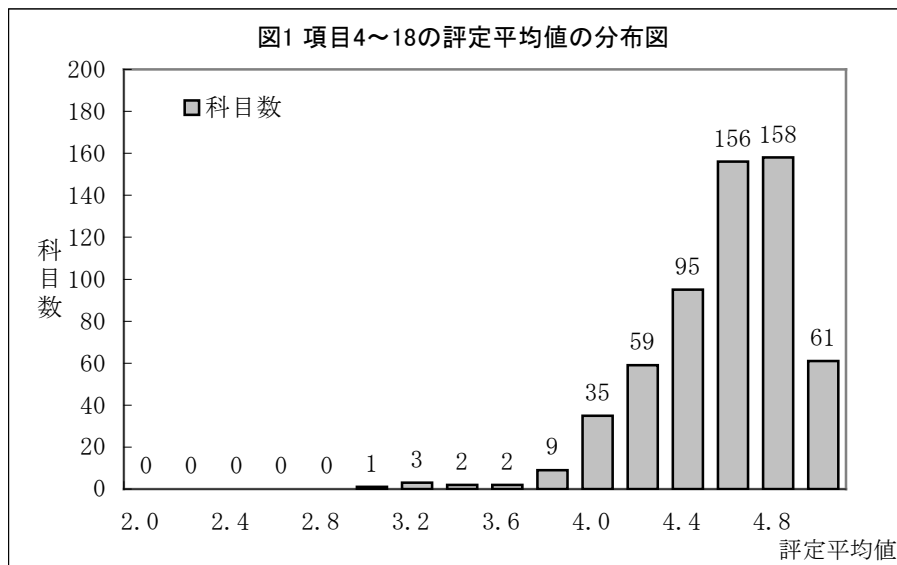


図 2-1 授業への出席

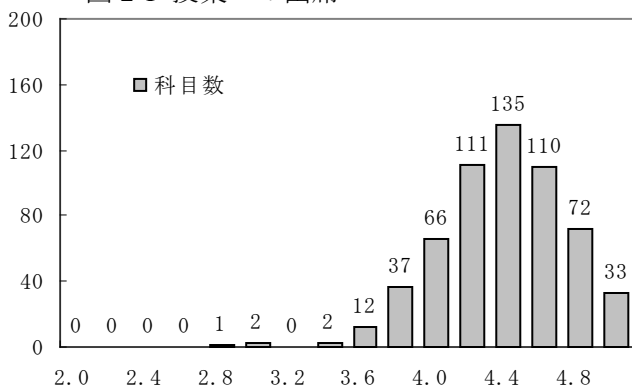


図 2-2 私語などせずに授業に取り組んだ

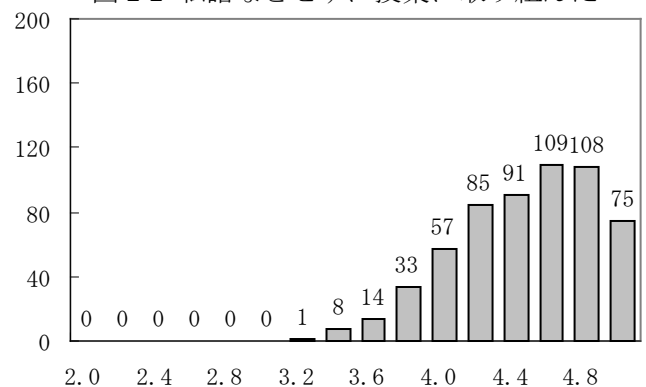


図 2-3 予習や復習など自主的な学習の実行

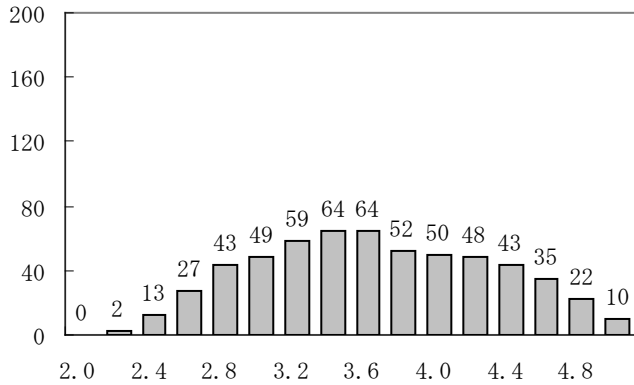


図 2-4 授業時間の厳守

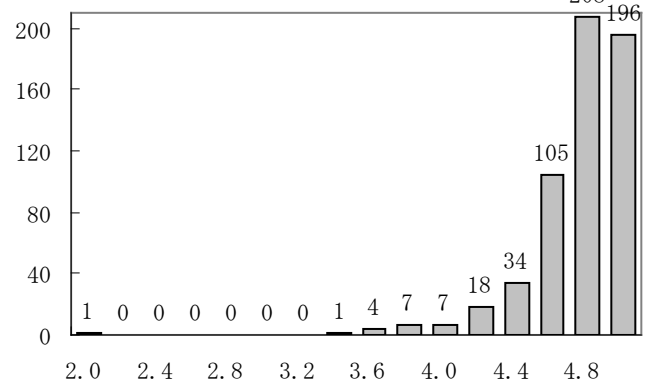


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

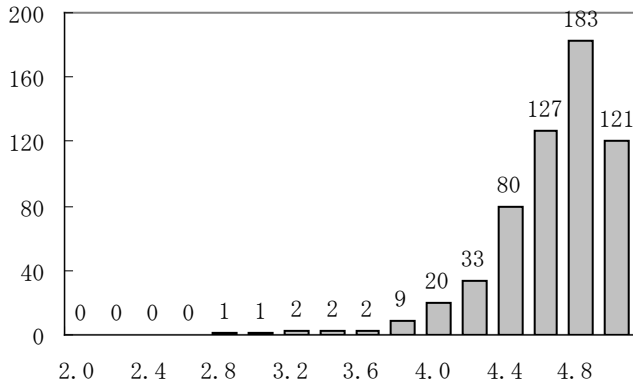


図 2-6 学修目標の明示

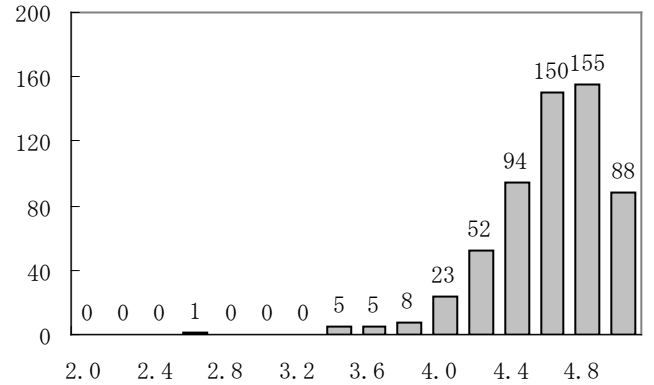


図 2-7 シラバスの有用性

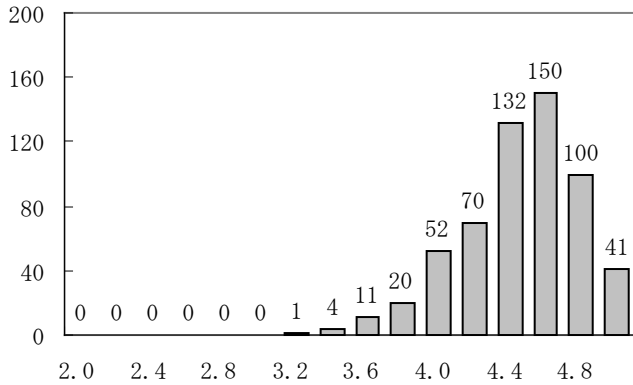


図 2-8 教員の声

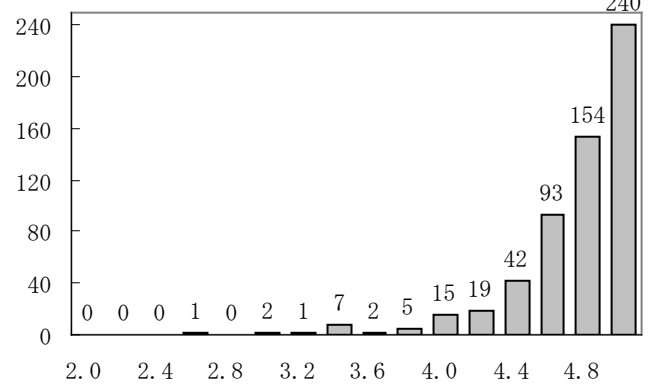


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

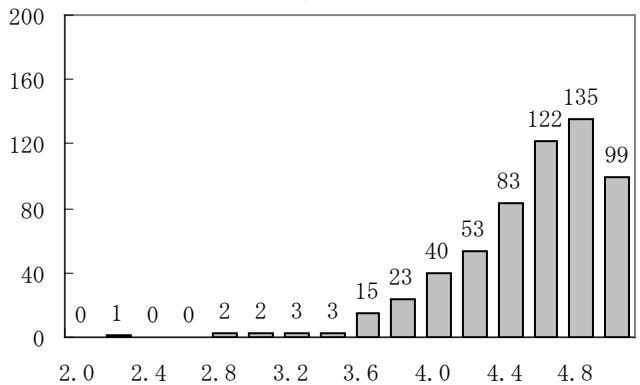


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

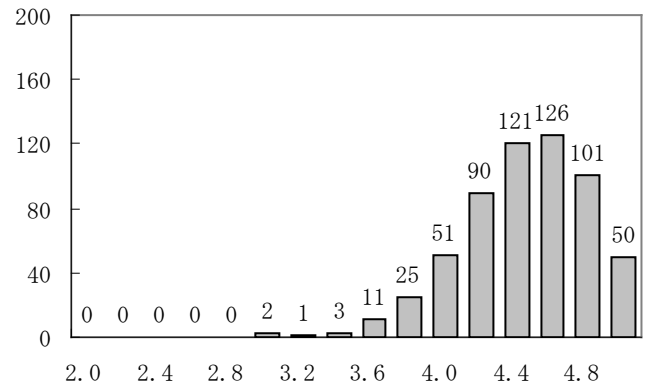


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

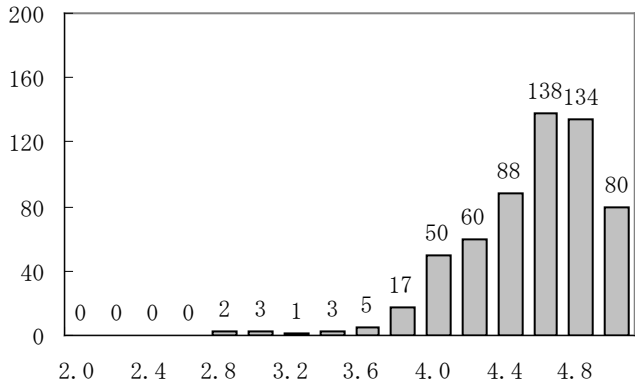


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

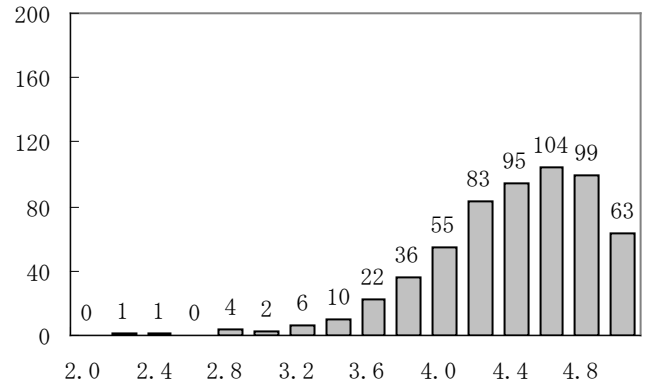


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

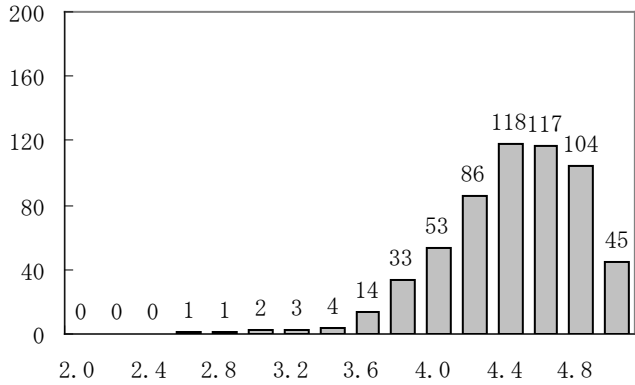


図 2-14 質問や相談の機会

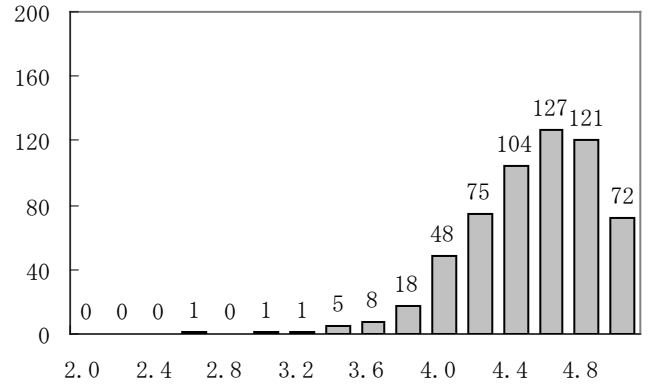


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

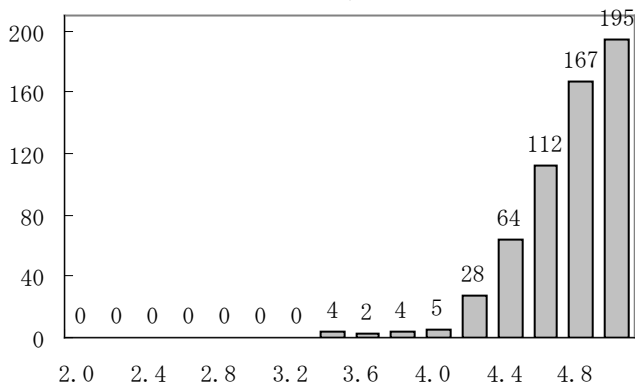


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

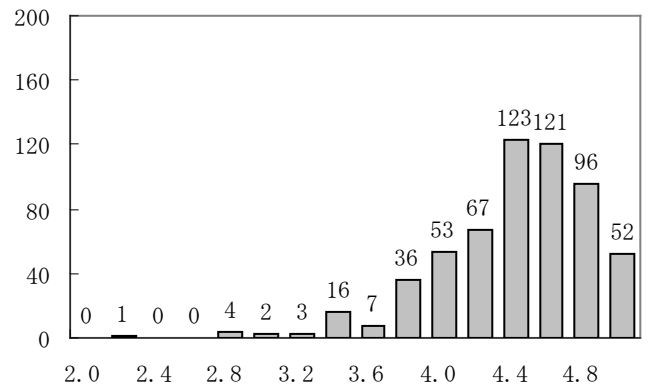


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

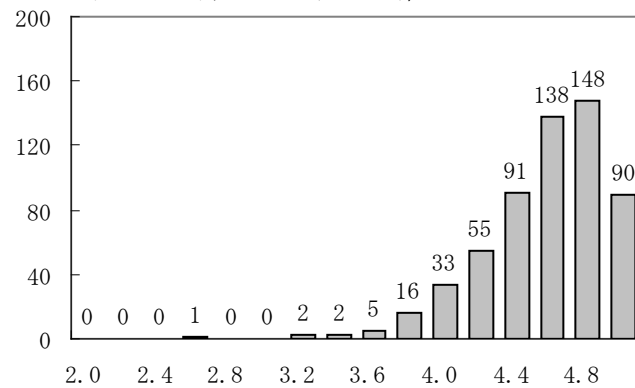
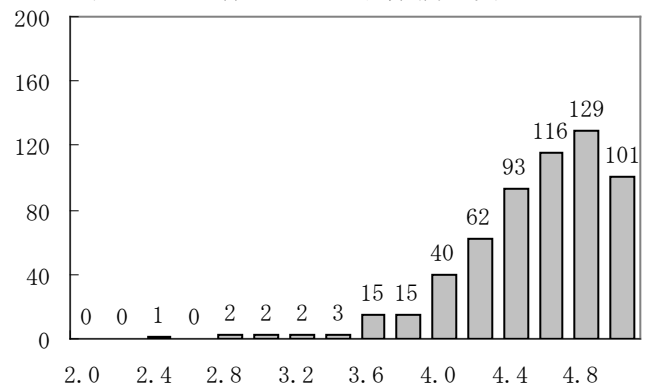


図 2-18 全体としての授業満足度



評定平均値の大学全体の平均が高い設問は、設問 4（授業の開始と終了の時間はきちんと守られていましたか）の 4.63、設問 8（教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか）の 4.59、設問 15（担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか）の 4.58 でした。これら 3 項目のヒストグラムも右肩上がりになっています。ちなみに、これらの 3 項目は、設問項目を現行の内容にした 2006 年度春学期以来、一貫して高い評定値を維持しています。

次に評定平均値の大学全体の平均が高い設問（4.40 以上）は、設問 5（毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか）の 4.50 と、設問 6（授業の学修目標ははっきりと示されていましたか）の 4.44 でした。授業の構成や速度、学修目標が示されていることは学生から比較的評価されているといえます。

一方で、評定平均値の大学全体の平均が 4.30 未満と他の項目に比べて若干低めで、かつ、評定平均値が 4.40 未満であった科目が 5 割を超えていた（つまり、比較的低い評定が多い）ものは以下の項目でした。設問 10（私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がなされていましたか；大学全体の平均 4.28）、設問 12（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すような工夫はありましたか；大学全体の平均 4.17）、設問 13（自主的・発展的に学習を進めることができるように、適切な指導・情報提供がありましたか；大学全体の平均 4.22）、設問 16（この授業に関連する内容に、さらに興味がわいてきましたか；大学全体の平均 4.22）。これらの課題を克服していくことで、大学全体の項目 4 から項目 18 の評定平均値が今後上昇していくと考えられます。

設問 18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は、われわれが最も重視する項目です。今回、この項目の評定平均値は 4.35 でした。86%以上の科目が 4.0 を超えています（4.0 以下が 13.77%）。他方で 3.0 未満の評価を受けている科目が 3 科目ありましたが、全体として、学生の満足度を十分満たしていると思われまます。

3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18 の設問で評価を求めるようになったのが 2006 年度春学期からです。以下に紙幅の都合上、最近 9 期分の評定値を表にして示します。

表1 項目 4 から 18 の評定平均値(2009 春～2013 春)

年度・学期	2009 春	2009 秋	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春
全 体	4.27	4.25	4.28	4.36	4.31	4.39	4.35	4.41	4.38
名古屋	4.30	4.31	4.33	4.39	4.35	4.43	4.37	4.42	4.41
瀬 戸	4.17	4.07	4.13	4.24	4.18	4.30	4.29	4.35	4.29

表2 18項目ごとの評定平均値(2009春～2013春)

設問項目	2009	2009	2010	2010	2011	2011	2012	2012	2013
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春
1 授業への出席	4.31	4.17	4.30	4.19	4.30	4.17	4.29	4.21	4.26
2 授業への取り組み	4.19	4.08	4.16	4.14	4.17	4.20	4.21	4.15	4.21
3 自主的な学習の実行	2.99	2.97	3.00	3.02	3.10	3.17	3.19	3.25	3.26
4 授業時間の厳守	4.58	4.47	4.60	4.60	4.61	4.60	4.62	4.61	4.63
5 構成や速度が適切	4.40	4.35	4.41	4.47	4.45	4.48	4.46	4.50	4.50
6 学習目標の明示	4.34	4.32	4.34	4.41	4.37	4.45	4.40	4.46	4.44
7 シラバスの有用性	4.22	4.22	4.24	4.30	4.27	4.37	4.31	4.36	4.34
8 教員の声	4.53	4.51	4.55	4.60	4.55	4.60	4.57	4.60	4.59
9 理解度への配慮	4.20	4.21	4.22	4.33	4.26	4.35	4.30	4.38	4.33
10 妨げ行為への対処	4.15	4.13	4.18	4.26	4.23	4.29	4.24	4.29	4.28
11 板書、配布資料	4.23	4.23	4.24	4.33	4.29	4.36	4.33	4.37	4.34
12 意欲を引き出す工夫	4.00	4.03	4.03	4.13	4.07	4.19	4.13	4.22	4.17
13 自主的学習の指導	4.04	4.06	4.07	4.17	4.10	4.23	4.18	4.26	4.22
14 質問や相談の機会	4.16	4.18	4.21	4.29	4.25	4.34	4.30	4.36	4.30
15 教員の姿勢	4.53	4.49	4.54	4.58	4.55	4.61	4.57	4.60	4.58
16 内容へのさらなる興味	4.09	4.09	4.10	4.19	4.13	4.25	4.19	4.27	4.22
17 知識・理解の深まり	4.30	4.28	4.31	4.37	4.33	4.42	4.37	4.42	4.39
18 全体としての満足度	4.23	4.23	4.24	4.32	4.26	4.37	4.32	4.39	4.35

表1は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問4から18の平均値を学期ごとに示したものです。大学全体の評定平均値は、既述のように4.38となりました。これは春学期としては2009年度以降で最も高い数値でした。また、この平均値は春学期よりも秋学期に高く、次の年度の春学期に若干低くなり、そして秋学期に高まりながら、全体として年々上昇傾向にありましたが、今年度の春学期もこの傾向は続いています。これは、南山大学の教員による授業を改善しようという意識や取り組みが年々増えていき、それが学生に徐々に伝わっている表れだと考えられます。

表2は、9期分の18設問ごとの評定平均値を示したものです。

学生の授業参加について問う設問1から3のうち、設問1(授業にはきちんと出席しましたか)の評定値は4.1～4.3の間を推移し、今回は4.26となりました。例年、春学期の方がこの設問の評定平均値が高くなる傾向があります。設問2(私語や「内職」(授業以外のこと)などせず、授業に取り組みましたか)の評定値は4.1～4.2の間を推移して、今回は4.21となっています。設問3(予習や復習など、自主的な学習を行いましたか)の評定値3.26は、この設問自体では過去最高の数値です。9期全体では2.9～3.2の、比較的低い数値ですが、2009年度が3.0を下回っていたのに対して、評定平均値が徐々に上昇しているのは、

南山大学の教員が意識的に予習や復習を課すようになってきた表れであると解釈しています。

先に述べたように、設問 10、設問 12、設問 13、設問 16 は大学全体の評定平均値が若干低めでした。このうち、設問 12（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すような工夫はありましたか；今回の大学全体の平均 4.17）は、今回を含めた過去 9 期の平均も 4.11 と設問の中で最も低い値でした。さらに、設問 13（自主的・発展的に学習を進めることができるように、適切な指導・情報提供がありましたか；今回の大学全体の平均 4.22）、設問 16（この授業に関連する内容に、さらに興味がわいてきましたか；今回の大学全体の平均 4.22）の過去 9 期の平均は 4.15、4.17 と低めになっています。これらの項目はいずれも 2009 年度よりは大学全体の平均が高まっており、少しずつ改善されていると思われます。一方で、全体としては数値が低めであり、学生が積極的かつ主体的に学ぶ工夫や試み、たとえば、「アクティブラーニング」の導入や、事前にビデオ視聴やリーディング等を課し、授業では事前学習をもとに学生同士で討論を行う「反転学習（反転授業）」などを採り入れていくことが必要とされています。

教員の授業運営や授業全体に関して問う設問 4 から 18 については、2012 年度秋学期に過去最高の数値ないしはそれと同じ数値となりました（設問 4 をのぞき）。今回の数値は設問 4、5 を除いて、すべてそれらを下回りましたが、設問 4 から 18 全体の評定平均値の項目で述べましたように、春学期－秋学期－春学期－秋学期で上下動を繰り返しつつ全体として数値が上がっていく傾向は、各項目それぞれについてもあてはまります。上で、設問 4 から 18 全体の評定平均値の推移から、南山大学における授業改善が着実に進められていると評価できる、と述べましたが、特定の項目が突出して全体の平均値を上げているのではなく、各項目が全体でこれを押し上げているのであり、前回、先先回のまとめ冊子にも指摘しましたように、教員の授業改善の努力が着実に進められていて、学生がそれをきちんと評価していることが読み取れると思われます。

4 回収率について

前 FD 委員会委員長が「南山大学『学生による授業評価』のまとめ」評価報告書において指摘されていた問題が、大教室での授業で回答率が低い科目が多いことでした。回答率は授業への出席率を表しているのでしょうか、または、授業評価が行われた日に授業に出席していても授業評価に回答しなかった学生が多いために回答率が下がっているのでしょうか。これを検討するために、今回を含む過去 9 期の大学全体の回答率、および、授業規模で 4 つに分類したカテゴリーごとの回答率の推移を算出しました（表 3 参照）。

授業の受講者数が多いカテゴリーほど、回答率が低くなっています。また、春学期に比べ、秋学期に回答率が低くなっています。一方で、回答率が年々低下しているという傾向はありませんでした。表 2 の設問 1（授業にはきちんと出席しましたか）の評定平均値について、過去 9 期の推移を見てみると、春学期よりも秋学期に大学全体の平均が低くなっており、設問 1 の授業への出席の程度と回答率が連動していそうです。また、2013 年度春学

期の設問 1 と回答率の相関係数を算出したところ、 $r=.36$ と正の相関がありました。設問 1

表3 回答率(2009 年度春学期～2013 年度春学期)

	2009 春	2009 秋	2010 春	2010 秋	2011 春	2011 秋	2012 春	2012 秋	2013 春
全体	62.9%	56.8%	62.3%	55.6%	64.2%	54.8%	64.8%	59.9%	65.9%
30 名以下	85.5%	83.5%	84.3%	83.4%	89.2%	82.7%	87.8%	86.9%	88.4%
31～60 名	81.9%	77.2%	81.9%	77.6%	83.4%	75.7%	83.1%	77.9%	83.2%
61～120 名	71.5%	60.8%	67.5%	59.5%	70.3%	56.6%	67.1%	61.1%	68.5%
121～240 名	59.4%	52.9%	59.1%	50.9%	58.3%	48.0%	58.5%	53.0%	59.0%
241 名以上	43.9%	41.3%	41.9%	35.6%	46.7%	40.2%	49.1%	42.8%	50.7%

は回答者のみ答えているので、この相関は授業評価が行われた日に授業に欠席だった学生のデータ（設問 1 の評定平均値がさらに低くなるデータ）は含まれていないので、解釈には慎重になる必要がありますが、回収率は、（授業評価の当日に授業に出席していても）授業評価に回答しないという要因よりも、授業に出席していないという要因が影響しているようです。

5 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として 1 ページに 2 件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

② **レーダーチャート 2 種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目 1～3 の評定平均値が、3.0 以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

6 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われています。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた「授業の良かった点」や「改善すべき点」を参考にして、自分の授業について点検・評価しています。

FD 委員会では、一定の基準に合致した科目（高評価科目および低評価科目）について、

自由記述欄に書かれた各項目を閲覧しています。これは、学生のみなさんがどのような授業を高く評価しているのか、また、授業運営上のどのような問題点の改善を望んでいるのかを知るためです。ここで得られた知見については、FD 関連 Web ページ内の、「**授業評価自由記述欄からみる「よい授業」とは**」で公開しています。多くの授業担当者に、有効な教授方法や授業改善の手掛りを提供するためです。

多くの受講生によって指摘されている授業の問題点や改善要望点については、FD 委員会で検討した後、授業担当者と話し合いの機会をもつなど、改善に向けた具体的な方策を考えています。

自由記述欄に書かれた授業環境（照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など）に関する要望については、関係部署や自己点検・評価委員会で取り上げて、授業環境の整備に努めています。

以上